

批評社 2800円

上田正昭監修

猪飼野の歴史と文化を考える会編

ニッポン猪飼野ものがたり

評・三浦 佑之
（古代文学研究者
立正大教授）

1950年代半ば、祖父に連れられて大阪の親戚へ遊びに行く時の、近鉄から省線に乗り換える鶴橋駅の人混みの凄さを、今もよく覚えている。ただしそこが猪飼野に接した場所だというのはずっと後に知ったことで、私にとって猪飼野はまったく未知の空間である。そこで、大きめの地図をわきに置いて本書を読んだ。

大阪市の生野区と東成区にまたがる、もっとも大きな在日コリアンの居住区のひとつ。しかもその歴史は5世紀にまで遡る、由緒正しき渡来人の世界である。日本書紀・仁徳14年の記事に「猪甘の津」があり、そこは大阪湾に張り

渡来人の地の今昔



猪飼野の再発見、日本人、などで設立された団体。猪飼野の文化のため、日本人、などで設立された団体。

出した台地に造営された難波の宮（中央区）の東南に位置する入江の船着場だった。古代の行政区画では、摂津国百済郡に含まれる。

中世以降の記録には猪飼野という地名が登場するそこは、近代になると、济州島の人々が多く渡来し居住する地になった。当然、差別や搾取の歴史が根深く存在するが、韓流ブームの影響もあり、現在では繁華なコリアンタウンとして人々を惹きつけて止まない。

すでに40年ほど前、行政地名としての猪飼野は消えたが街は今も元気だ。その長く深い喜怒哀楽を秘めた猪飼野の今昔を、多彩な人々が語る。古代から近世にかけての猪飼野の歴史、近代における渡来のなりたちから戦後のすがた、現在の街のにぎわいと変貌。本書には、猪飼野のすべてと熱い想いとが詰め込まれている。

作家・梁石日へのインタビュー、松下幸之助・司馬遼太郎を横綱、折口信夫・田端義夫を大関に並べた「猪飼野ゆかりの著名人番付」、渡日女性への聞き書き、いくつもの体験談や生活記録、どこを読んでも驚くことばかり。パナソニックも焼肉も猪飼野からはじまったし、ヘッパサンダル（初耳のヘッパはヘッパバーン）のほとんどは猪飼野で作られていた。

機会があったら鶴橋駅で降り、コリアンタウンを歩いてみたいと思わせる、そんな本だ。